

「第36回青森県農業経営研究協会賞」受賞者

➤ 氏名 間山直浩 (まやま なおひろ)

➤ 年齢 昭和39年生まれ・53歳

➤ 住所 青森市浪岡

➤ 経営内容
(平成28年)



| | |
|--------|---|
| 農業労働力 | 家族4人(本人、妻、父、母) 雇用(延べ250人) |
| 経営耕地面積 | 水田43a、転作田27a、普通畑14a、 樹園地(成園)307a、樹園地(未成園)40a |
| 主な作付作物 | りんご347a、水稲43a |

【業績】

危険分散と労働力配分の重視、販路の多様化による安定したりんご経営の実践

間山氏は、高校卒業後、大学に進学し、昭和62年4月に就農した。

当時は、りんご300a、水稲70aと地域でも比較的経営規模の大きいりんご農家であったが、マルバ台の老木が多く生産量は低下傾向にあり、また品種構成は「陸奥」や「ジョナゴールド」など中生品種が主力であった。

平成3年9月、台風19号により9割以上のりんごが落果する大きな被害を受けたことを契機に栽培面を見直し、浪岡町農業後継者の会の仲間と共に、作業効率の向上と単位面積当たり収量の増加に向けて、わい化栽培の導入を開始した。

平成4年以降、改植事業を活用しながら計画的にわい化栽培への切り替えを実施した結果、現在は全経営面積の半分以上(175a)にまで拡大している。また、品種の導入にあたっては消費者や市場の要望を考慮し、かつ労働力配分の適正化を図るため早生から晩生、赤色系・黄色系など幅広い熟期及び品種構成としており、災害時の被害に対する危険分散の役割も果たしている。さらに、販売面では市場(60%)、宅配(30%)、農協(10%)という取引先を組み合わせることで安定した販売力を維持している。

このほか、学生や若手指導員の研修及び農作業体験等の受け入れを積極的に行うとともに、シルバー人材センターで技術指導を行い、高齢者の就労促進に大いに貢献するなど、地域農業のけん引役として尽力している。

1 経営の発展経過と概要

青森市浪岡・吉内地区は津軽平野の中東部に位置し、南津軽郡の北端にある。西南部へ向け平野が開け、北部は津軽山地の南端、東部は奥羽山脈が広がる。また、県内でも有数の豪雪地帯であるため、農業用パイプハウスの倒壊やりんご樹の裂開や枝折れも多く、生産量を維持するには雪害対策も重要な課題となっている。

(1) 就農年

昭和 58 年 4 月 高校卒業後、大学に進学

昭和 62 年 4 月 大学を卒業後に就農

(2) 発展の経過

就農時（昭和 62 年）はりんご 300 a、水稻 70 a と地域でも比較的経営規模の大きいりんご農家であったが、マルバ台の老木が多く生産量は低下傾向にあり、また品種構成は「陸奥」や「ジョナゴールド」など中生品種が主力であった。

就農 4 年目の平成 3 年には、青森県りんご協会が主催する第 17 期りんご産業基幹青年養成研究を受講し、りんご栽培に関する知識や技術を習得に励んでいた。同年 9 月、台風 19 号により 9 割以上のりんごが落果する大きな被害を受けたことを契機に栽培面を見直し、浪岡町農業後継者の会の仲間と共に、作業効率の向上と単位面積当たり収量の増加に向けて、わい化栽培の導入を開始した。

(3) 経営収支の概要

平成 28 年の経営概要は、水稻 43 a、転作田 27 a、普通畑 14 a、樹園地（成園）307 a、樹園地（未成園）40 a となっており、販売額はりんご 2,261 万円、水稻 40 万円で、経営全体の粗収益 2,302 万円、所得 760 万円を達成している。労働力は経営主夫婦と両親の 4 人、雇用が延べ 250 人となっている。

〈表1〉 経営耕地面積

(平成28年・単位：a)

| 地 目 | 面 積 | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| | 所有地 | 借入地 | 共有地 | 計 |
| 水 田 | 43 | | | 43 |
| 転作田 | 27 | | | 27 |
| 普通畑 | 14 | | | 14 |
| 樹園地 | 成園 | 307 | | 307 |
| | 未成園 | 40 | | 40 |

〈表2〉 家族と労働力

(平成30年2月1日現在・単位：歳、日)

| 氏 名 | 続柄 | 年齢 | 年間農業 従事日数 | 年間兼業 従事日数 | 役割分担 |
|---------|----|----|--------------|--------------|--------|
| 間 山 直 浩 | 本人 | 53 | 280 | | 経営全般 |
| | 妻 | | 280 | | 作業及び経理 |
| | 父 | | 200 | | 農作業 |
| | 母 | | 150 | | 農作業 |

注) 年間延べ雇用人数 約250人



2 経営の特徴

(1) 災害からの危険分散

平成3年9月に発生した台風19号によるりんごの落下被害を契機に栽培面を見直し、平成4年以降、改植事業を活用しながら毎年10～20aずつ計画的にわい化栽培への切り替えを進めた。現在、わい化栽培は全経営面積の半分以上(175a)まで拡大し、幅広い熟期及び品種構成とすることで災害時の被害に対する危険分散の役割を果たしている。

(2) 品種構成による労働力配分の重視

品種構成は、改植当初は着色系の「ふじ」や「北斗」「つがる」、平成10年以降は「トキ」や「シナノスイート」、近年は消費者や市場の要望を考慮し「シナノゴールド」や「ぐんま名月」なども取り入れている。このように、早生から晩生、赤色系・黄色系など幅広く品種を栽培し、労働力配分の適正化を図っている。

(3) 販売力の強化と経営の安定化

販売は、市場(60%)、宅配(30%)、農協(10%)という取引先を組み合わせることで安定した販売力を維持している。

平成4年から開始した青森市内量販店での店頭販売では、生産者と消費者の顔が見える関係づくりを進めるとともに、ゆうパックを主体とした宅配に取り組んだところ、宅配の売り上げが全体の3割を占めるようになった。ただし、冬期間は剪定の技術指導があるため、宅配による販売は2月上旬で終了している。

(4) パソコンによる経営管理

就農直後からパソコンによる簿記記帳と青色申告を実施し、経営状況の把握に努めるとともに次年度の営農計画に反映させ、経営改善に努めている。

(5) 豪雪地帯における雪害対策

冬期間は、わい化樹の雪の掘り下げと普通樹の雪下ろし、枝の引き上げをこまめに実施している。特に、植え付け2年目のわい化樹の苗木については、樹形が損傷すると初期収量に大きく影響するため細かな管理を行っている。また、春作業に備え、融雪促進剤は年3回散布している。

(6) 食育教育の実践

グリーン・ツーリズムの一環として、地元小中学校の農作業体験や県外の中学校や高校の修学旅行生を受け入れ、農業の魅力を実感してもらうことを心掛けている。

〈表3〉農作物の生産・販売状況

(平成28年・単位：a、kg、円)

| 作物名 | 作付面積 | 数量 | | 仕向け内容 | | | | | | |
|-----|------|------------------|--------|--------|----------|-----|----|----|-----|----|
| | | 10a 当たり 収量 | 総量 | 販売 | | | 経営 | | 家計 | |
| | | | | 数量 | 平均 単価 | 販売額 | 種子 | 金額 | 数量 | 金額 |
| りんご | 347 | 2,504 | 86,880 | 86,400 | ■ | ■ | | | 480 | ■ |
| 水 稲 | 43 | 500 | 2,150 | 2,150 | ■ | ■ | | | | |
| | | | | | | ■ | | | | ■ |

〈表4〉経営の推移

(単位：円)

| 区 分 | | 平成26年 | 平成27年 | 平成28年 | |
|-----|-----|-------|-------|-------|---|
| 収入 | りんご | ■ | ■ | ■ | |
| | 販売 | 市場 | ■ | ■ | ■ |
| | | 宅配 | ■ | ■ | ■ |
| | | 農協 | ■ | ■ | ■ |
| | 家計 | ■ | ■ | ■ | |
| | 米 | ■ | ■ | ■ | |
| 計 | ■ | ■ | ■ | | |
| 所 得 | | ■ | ■ | ■ | |

〈表5〉青森県の経営指標との実績比較

(単位：円)

| 区 分 | 所 得 | 備 考 |
|-------|------------------|----------|
| 間山 直浩 | ■ | 平成28年の実績 |
| 青 森 県 | 6,271,639 (100%) | 経営指標 |

〈表6〉 りんごの出荷スケジュール

| 品種名 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|---------|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|-----|-----|-----|
| つがる | | | | | | | | 下→上 | | | | |
| トキ | | | | | | | | | 下→ | | →下 | |
| シナノスイート | | | | | | | | | | 中→ | →下 | |
| 王林 | →下 | | | | | | | | | | 上→ | → |
| ふじ | → | →中 | | | | | | | | | 上→ | → |

〈表7〉 農機具の所有状況

(平成28年・単位：台、年、円)

| No. | 種類 | 規格・能力 | 台数 | 取得年 | 取得価額 |
|-----|-----------|---------|----|------------|-----------|
| 1 | スピードスプレーヤ | 1,000 ℓ | 1 | 平成16年 | 3,525,000 |
| 2 | 高所作業台車 | | 2 | 平成15・28年 | 1,453,600 |
| 3 | 乗用草刈機 | | 2 | 平成3・28年 | 1,798,784 |
| 4 | トラクタ | 15馬力 | 1 | 平成21年 | 1,585,000 |
| 5 | フォークリフト | | 3 | 平成3・23・26年 | 3,782,500 |

〈表8〉 施設・建物の所有状況

(平成28年・単位：㎡、年、円)

| No. | 種類 | 構造 | 規模 | 取得年 | 取得価額 |
|-----|-----|----|----|---------|-----------|
| 1 | 作業場 | | | 平成2年 | 2,630,000 |
| 2 | 冷蔵庫 | | | 平成元・6年 | 2,205,000 |
| 3 | 防風網 | | | 平成4・11年 | 894,159 |

〈表 9〉 作目別経営収支

(平成 28 年・単位：円)

| 費 目 | | 経営全体 | 作 目 別 | |
|-------------|-----------|------|-------|-----|
| | | | りんご | 水 稻 |
| 粗 収 益 | | | | |
| 経 営 費 | 物件税・公課諸負担 | | | |
| | 種苗費 | | | |
| | 肥料費 | | | |
| | 農具費 | | | |
| | 農業薬剤費（購入） | | | |
| | その他の諸材料費 | | | |
| | 修繕費 | | | |
| | 光熱動力費 | | | |
| | 作業用衣料費 | | | |
| | 農業共済掛金 | | | |
| | 減価償却費 | | | |
| | 荷造運賃手数料 | | | |
| | 雇人費 | | | |
| | 利子割引率 | | | |
| | 賃借料・料金 | | | |
| | 土地改良・水利費 | | | |
| | 組合費 | | | |
| | 拠出金 | | | |
| | 宅配りんご仕入れ | | | |
| | 宅配りんご経費 | | | |
| 雑費 | | | | |
| 合 計 | | | | |
| 所 得 | | | | |

3 地域農業への貢献

(1) 農業指導者の育成と地域の担い手づくり

4 Hクラブ員や青年農業士、りんご基幹青年として活動してきた経験に基づき、農業経営士として後継者の育成に努め、青森県営農大学校の学生や新任普及指導員、新規就農希望者等の研修を積極的に受け入れている。研修では、りんご栽培に関する知識や技術の習得だけでなく、農家の生活を肌で感じ農業に対する理解を深めてもらえるよう心掛けているほか、研修後、浪岡地区において就農した地域の担い手に対しては、定期的に助言・指導を行うなど、きめ細かい支援を続けている。

(2) 剪定技術力向上への取り組み

青森県りんご協会吉内支会長（平成 13～25 年）として地区の農家への情報提供をする一方、仲間とともに品評会に参加するなど地区のりんごづくりの発展に寄与してきた。

平成 14 年、38 才の時に第 5 期りんご剪定士に認定され、その後、りんご協会の理事や浪岡地区わい化技術研究会の役員として浪岡地区はもとより、津軽地域全体で剪定指導（延べ約 700 名）を行うなど、わい化栽培の基本となる剪定技術の普及に力を入れている。

(3) 高齢者の雇用促進に向けた取り組み

青森公共職業安定所が国の事業として実施した「りんご学校」の講師を平成 23 年から 3 年間務め、シルバー人材センターの登録者を対象に技術指導を行った。卒業生の中には浪岡地区のりんご農家へ雇用された者もあり、雇用労働力の確保に結びつくとともに、高齢者の就労促進にも貢献している。

(4) りんご技術の向上とりんご産業発展への貢献

平成 2 年から現在までの長きにわたり青森県生育観測圃の設置や農薬試験地に選定され、生育データはりんご生産情報として県全域へ提供されている。

また、平成 29 年からは、りんご黒星病対策研究のための「黒星病孢子採集器」と「気象観測装置」設置及びデータ分析に協力している。

4 今後の展望と課題

労働力不足が経営課題として顕在化する中で、持続可能な新たな果樹経営の確立を目指し、5 年後 10 年後を見据えた改善を進めている。

規模を拡大せず収益をアップさせるため、省力化による生産性の向上を図るとともに、宅配等において新規顧客の確保を図る。



剪定講習会①



剪定講習会②



高齢者を対象とした講習会



葉とらずりんごのチラシ



宅配用りんご